

真夏の道頓堀に夜空を駆け抜ける水龍

大阪水龍～ OSAKA AQUA DRAGON ～ / 2015.8.1～9 @大阪・道頓堀



水都大阪を表現するイベント

2015年は道頓堀開削400周年。“水都大阪”を内外にアピールするさまざまなイベントが実施された。そのなかのひとつ、とんぼりリバーウォークに時を告げる“水龍”を蘇らせる「OSAKA AQUA DRAGON」は、真夏の道頓堀をダイナミックに彩り、人々の汗を爽快地吹き飛ばした。

親水性の高い遊歩道には、船着き場もあり、遊覧船が運航され、海外からの観光客も多く訪れるスポットとなっている。定刻。イベントの始まりを知らせる太鼓のリズム。静かな響きが徐々に大きな音へと変化し、“ドーン”と時が打たれた瞬間、最初の龍が舞い上がる。

太鼓、ドラ、笛の音が高らかに鳴り響く。水柱が道頓堀の川面を揺らせ、龍が水から現われる。助走をつけるようにテンポ良く太鼓がリズムを打ち、水柱が相合橋の両岸からクロスする。次から次へとつながり、龍は戎橋の方向に向かって勢いよく走り抜ける。ライトアップされた龍は躍動感あふれる姿で夜空を舞い、戎橋の手前で大きく上空に跳ね上がる。太鼓はアップテンポになり、龍は相合橋のほうに逃げて行く。少しの間を置いて、ラストの一打ちで龍は一斉に吹き上がり、リアルな空想はフィナーレを迎える。

16台のウォーターショットが水龍を再現現場に流れた幻想と迫力のリズムは、和太鼓パフォーマンス集団「打打打団 天

鼓」による演奏。音楽はこのイベントのために作曲されたもので、噴き上げる水と太鼓の旋律を和の世界で表現した。龍を表現したウォーターショットは、長さ1.5mの筒に約10リットルの水を自動的に装てんし、高圧ガスの圧力で25mもの高さまで水を吹き上げる。これを道頓堀川に掛かる戎橋～相合橋間約200mに16台設置した。水の発射音も演出のひとつとなり、吹き上がる水の塊が飛び出すたび、歓声が上がった。

理想的な角度と方向を見極める

設置場所から対岸方向に水を飛ばす際、観客をずぶ濡れにすることは避けなければならない。しかし、それを恐れるあまり安全な川の真ん中に水を放っても、龍

が水面を飛び跳ねる躍動感あふれる姿は表現できない。ギリギリの着水点を見つけるために現地でテストを繰り返した。発射時の風の向きや強さによっても水の飛び方は変わる。いろんな条件を想定しながら、理想的な角度と方向を見極める作業に時間を費やした。

放たれた水龍は、塊からしぶぎに変化し、最後は霧のように拡散する。真夏の夜にそれは気持ちのいい涼となり、迫力の水龍への驚きが、水の気持ち良さを体感する歓声へと変わった。あちらこちらから聞こえてきたそんな歓声が、私たちの心配と苦勞を吹き飛ばした。

レイ 小山正己



打打打団 天鼓の演奏



リハーサル風景

Direction

小山正己

Masami Koyama /
レイプロデューサー



1952年 奈良県生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒。
2010年 上海万博「大阪館」映像制作 / 中国民間企業館メインショー演出
2011年 中国・西安市大明宮「天の祭り」演出
2012年 OSAKA 光のルネサンス「シャイニングアートウォール」演出
2013年 光のルネサンス中之島公会堂プロジェクトマッピング演出
2015年 大阪水龍演出

works DATA

会期：2015年8月1日～9日
会場：とんぼりリバーウォーク
主催：水と光のまちづくり推進会議（大阪府、大阪市、大阪商工会議所、関西経済連合会、関西経済同友会）、inochi 未来プロジェクト実行委員会
協力：大阪ミナミ400年
プロデュース：電通テック関西支社 成影大
ディレクション：レイ 小山正己
ウォーターショット：ギミック大阪 岡田正夫
音楽：打打打団 天鼓
1987年、大阪にて創設。「観客を楽しませる迫力の響き」をテーマに、和太鼓に演劇の理念を合体させた独特の演出により注目を集める。特に伊達谷門取（日本舞踊）とのセッションにより海外で数多くの実績を残す